会員の広場

507：7（大気現象；用語）

「気象現象」をやめて「大気現象」を使いませんか？

鈴　木　啓　助*

平成20年度大学入試センター試験の理科③：地学Ⅰの問題文に「気象現象」の文字を見いだし，ついに大学への共通試験にも使われるようになったかと愕然とした．この「気象現象」という言葉は，口語体でも言いやすいのか，テレビの天気予報などでも頻繁に使われるようになっている．しかし，「気象」は「大気の状態および雨・風・雷など，大気中の諸現象（広辞苑第6版）」を指す言葉なので，「気象現象」は「頭痛が痛い」と同じように，日本語として正しい用法ではない．大学入試センター試験は，各分野の英知を集めて，極めて念入りに問題を作成していると聞いていたので，大学入試センターに「気象現象という用法は誤りではありませんか」と問い合わせた．もしかしたら，この用法は既に認知されており，私の考えが古いのかも知れないとの不安もあり，それならそうと回答してくれるかと期待もしていた．が，大学入試センター理事長名での回答は，

―高校の教科書では，「雲ができたり，雨が降ったりするなどの気象現象」（D社：p. 97，他にp. 94，p. 104），「雲の発生や降雨のような気象現象」（S社：p. 149）などとして使用されていますし，宇宙・天文に関する記述（D社：p. 148，T社：p. 22，p. 29）の中でも同様の用法が見られます．したがって本問では，教科書記述に準ずることとしました．―

であった．大変ごもっともな回答だったので，教科書の出版社に問い合わせることにした．S社からは翌日に，

―ご指摘の「気象現象」につきましてですが，ご指摘のとおり日本語として不適切な用法でございました．改訂の際には改めさせていただきます．―

と回答があった．「気象現象」を不適切な用法と考えているんだなと安堵しておりましたが，D社からは数日間の後に，

―現状を見てみますと，「気象現象」は，気象庁をはじめ，気象学の専門書や啓蒙書にも見受けられ，一般に広く使用されていることばでもあるようです．―

とのことでした．気象庁でも使われているとすると大変だと思い，「気象現象」のネット検索（気象庁ホームページのサイト内検索）を試みたところ，気象庁だけで306件，国の機関全体では1,517件（いずれも2月9日現在）がヒットし，極めて広範にわたり「気象現象」が使われている事が判明した．いずれの場合も，「大気現象」と言い換えて何らおかしくない文章ばかりである．どうして「大気現象」を使わないのだろうか．気象庁に勤務する知人に聞いたところ，「気象庁では，気象のみならず，地震や火山，海洋等も対象としており，それぞれ地震現象とか火山現象と言っている．その流れで気象現象を使っているのではないか．」とのことであった．確かに文章を書くとき，「・・・現象」を使うと便利である．

気象学会には，気象庁に勤務している方も，教科書を執筆している先生方も，入試センター試験の問題を作成している先生方も入っていると思うので，ここに投稿し問題提起をした次第である．

言葉というのは，それぞれの固有の文化を象徴するとても大切なものである．新しい言葉が次々と生まれるのは文化の歩みにとって必要であるが，誤った用法を増殖させ蔓延させるのは固有の言語を尊重しないことであり，改めるべきであると思う．今回の最初の指摘に対する回答から「・・・で使っているから・・・」という責任逃ればかりであるが，誤りであると認識するのであれば，その段階から潔く正していくべきではないだろうか．

* 信州大学理学部．

© 2008　日本気象学会